

第1回柏市文化財保護委員会 柏市文化財保存活用地域計画作成への意見まとめ

資料5

項目	No.	発言順	所属	氏名	意見内容	対応
柏市の特徴・関連文化財群テーマの設定	1	1		西野	交通というところが強調されていると思うが、最近わかってきたことで柏市に強く関わると感じているもので、 <b>下野-北総回廊</b> というものがある。江戸時代に利根川の東遷工事をする前まで、千葉市土気から日光・足尾山麓まで一度も谷に下りないような道が通っていたもので、そのことが動物、人を考えるうえで非常に重要なことであり、それがあったからこそ旧石器、縄文時代の遺跡が全国でも下総台地に集中しているということだと思う。その中で柏はどうかという話をしていくのがよいのではないかと。	交通の要衝、下野-北総回廊の位置づけ ⇒第1章、第3章（歴史文化の特徴）に記載
	2	2		西野	縄文時代前期に遺跡が多く貝塚が多くあるということは色んなところに書いてあるが、その中でももう少し強調してもよいと思うところは、 <b>二つの内海が両側にあった</b> ということ。柏で <b>ハマグリが採れた</b> というところはもう少し強調してもよいと思う。 <b>それが退いていったなかで柏はどうかやって変わっていったのか</b> というところが縄文時代の面白いところだと思う。そんな中で現在進行中のインター西區画整理事業に伴う大発掘は、どこまで行っても縄文時代の住居が出てくるという状況であり、つくばエクスプレスで発掘したところと合わせて縄文時代中期の中心的な場所と言っている状況が見えてきている。例えば、 <b>出てきた縄文時代の土器の量や質というところで言うと千葉市より上になっている</b> 。ではどうしてそこにそんなに人が集まってきたのかというところは、北関東や東北といったいろんな地域の人が関わっているのではというところがある程度見えてきてはいるが、 <b>どういう生活をしてきたのか</b> というところはまだこれからというところ。少なくとも <b>もの凄いい人口の集中するところであった</b> ということは間違いのないだろうと思う。それと <b>弥生時代の終わりから古墳時代の初めのパイオニアとして、新しい文化の始まる場所を取り入れた</b> というところの <b>すばらしい資料が柏にはあることをもう少し強調してもよいのでは</b> と感じた。	遺跡の位置づけ ⇒第1章、第3章（歴史文化の特徴）に記載
	3	3		井上	やはり柏の特徴的なことを強調するという意味でも <b>陸路も重要視したほうが良いのでは</b> と思う。 <b>陸路にしても水路にしてもここに人が集まってくる</b> ということはやはりそれなりの意味を見出すことができるのではないだろうか。 <b>中世城址については中世の水運にかなり影響されて作られているものが多い</b> ため、それは重要視していただければと思う。	交通の要衝、陸路の位置づけ ⇒第1章、第3章に記載
	4	9		金出	調べてわかったことを伝えることが大事であり難しいことだと思っている。各市で「ヒトとモノが行き交う」という言葉はよく聞く。これはもちろん一つのシナリオとして良いと思うが、それよりももっと柏らしさが出るものがあるのではと思う。 <b>旧石器時代、縄文時代から現代までずっと歴史が続いて人が住み続けていることもすごいこと</b> だと思う。2年前に計画の中の建物調査を実施した際、柏市も広いのでどこを調査すべきか選ぶのに、 <b>近世の集落や住まいの形態が町として残っているところに行けば建物が更新されていても景観が残っているのではないかと</b> 目星をつけた。そこにおそらく重層的に無形文化財も残されているのではないかと感じた。今まで建物を単体として見てきたが、 <b>景観や街並みを含めて群として見る</b> ことが重要になってくるのではないかと感じた。 <b>新旧が層になって今日に続いていることを念頭に置くと、例えば牧だったところが開墾されて陸軍が使用し、それが今は学園都市になっていたりという流れも組み込んでよいのでは</b> と感じた。	新旧が層になって今日に続いている重層性 ⇒第3章（歴史文化の特徴）に記載
	5	10		塩澤	かしわ資産というところで7つのテーマを整理されており、かなり細かく網羅的に書かれていると感じた。 <b>柏は多様性がある</b> と感じており、かつては船を使った水運による地域であったし、香取の海の一番西の外れにあたるということの意味も大きいと感じている。全体として考えると、柏は確かに「ヒトとモノが行き交う」という表題のとおりではあるが、 <b>そういう所は全国にたくさんあるため、特徴が出にくい</b> とも感じた。柏の特徴は、 <b>水運と陸運が同時に重要な役割を果たしてきたことが大きい</b> と思う。これは両方ある場所は <b>案外少なく、さらに近代になって飛行場ができてからは空運が一時期出てきたことで、水・陸・空とが三つ揃ったところはあまりない</b> のではないかと。こういうことを大テーマとして最初に出してもよいのではないかと。内容そのものというより <b>テーマの切り取り方を工夫すると</b> もっと特色が出るのではないかと。 <b>戦争遺産も今後もっと保存と活用を意識してほしい</b> 。危ない状況になっているところも <b>多くあるのではないかと</b> 思う。	テーマの切り取り方を工夫 ⇒序章（本計画の対象） 第3章（歴史文化の特徴） 第7章1（関連文化財群）に記載

柏市の特徴・関連文化財群テーマの設定

6	13	石神	関連文化財群の(5)で災害関係のところがあるが、いま災害に対する意識というのは市民の中でも高いと思われる。そんな中で過去の災害を捉えておくのはとても大事だと思う。また、本文の中で水神宮の石祠が利根川沿いに多いことに触れているが、そういった災害関連の石造物も多くあるのではと思う。ちなみに柏市の災害年表(※)のようなものはあるのか。	過去の災害を捉える ⇒第1章、第7章の1(関連文化財群)に記載  (※)災害年表について、事務局の会議内回答「調べればあると思われる。少し過去の資料を見ただけでも、災害をどう乗り越えてきたかといった先人たちの記録はいくつかみられる。」
7	14	金出	大正6年の十五夜の高潮というのものが、市川から習志野、そして君津に大きな被害が出たあと、その海辺がリゾート地になっていたりしている。関東の宝塚構想の話のつながりで、橋本旅館のところで利根川の堤防が決壊した時が大正のころだったということで、かなり身近な話として海に面してなくても災害があったということがあげられる。大きな歴史として残るものだけでなく、地域的な災害もあるのではないかなと思う。	過去の災害を捉える ⇒第1章、第7章の1(関連文化財群)に記載
8	15	西野	柏は災害が少ない所という面もあるのではと思う。縄文時代の遺跡を見ても、定住的なムラは高台に作っている。なぜ千葉県に縄文時代の遺跡が多いのかというと、下総台地の中だけを流れる川は氾濫が少なく、大雨が降った後でも交通ができる場所も多いという点がある。内陸に貝塚をつくり、東京湾に出られる日が多かったことは大きいと思う。過去の災害マップなどを千葉県全体で作ったときに、柏は少ないところだという特徴が出てくるような気がする。	過去の災害を捉える ⇒第1章、第7章の1(関連文化財群)に記載
9	20	西野	柏市の特徴として、他の地域との関係で重要なものが多い気がする。東京湾岸と古鬼怒湾岸と両方に繋がっていることが特徴で、他の地域のこともある程度書かないとその良さがわからないのではないかな。柏市のものでもそれぞれの時代にどこと繋がっているかとか、どういう分布構造をしているかとかを見ることで柏市の特徴が出てくるのではと思う。	他の地域との関係性 ⇒第3章(歴史文化の特徴)に記載
10	21	井上	柏の特徴が出るためには周辺のことを書く必要があると思う。それを書くためには周辺との連携が必要だと思うが、市民が見た時にそういった周りとの関係という部分で柏の特徴が出てくると思うので、お願いできればと思う。	他の地域との関係性 ⇒第3章(歴史文化の特徴)に記載
11	22	西野	(事務局質問:「縄文時代と中世においては柏はどういう位置づけなのか」に対して)縄文時代に関しては、縄文時代の初め頃はまだ東京湾ができ始めた頃で、それがどんどん奥まで入ってきて6500年くらい前に海の一番奥が柏のあたりであった。縄文時代の中でも千葉県の中でどういう位置づけになるのがダイナミックに変わることが柏の特徴。ずっと中心的なところというのは千葉県の中でも市川や市原であるが、多くは中心的である時期は短い。質問についてはすでに作っているものがあるので、次回それを用意したいと思う。それと先ほど井上委員の話聞いて思ったのが、他の市町村との関係を積極的に入れると今後それらを活かしていく段階で具体的な計画に繋がっていくと思う。	他の地域との関係性 ⇒第3章(歴史文化の特徴)に記載
12	23	井上	中世に関しては、前半だと相馬御厨の中心的なところの一つであることと、平将門の関係の伝説も非常に多いこと、これについては印西や我孫子も多くあるが、そういった分布なりを見ていくことで一つの柏の特徴が出ると思う。戦国時代だと松戸の小金城の高城氏が戦国時代の後半に大きな力を持ってきており、常陸国との境にもあたり、細かい話になるが箕輪城のように城が継続的に続いたところもあるが松ヶ崎城のようになぜか生活の痕跡が残っていないといったいろんな機能がある。それが時代と共に高城氏にどう取り入れられていったのかなどもからんでくると思う。中世後半については高城氏の勢力の周辺地域であることが特徴として表れていると思う。	中世 ⇒第1章、第7章の1(関連文化財群)に記載
13	24	藤井	特に近年は鉄道とおそらく台地が大きな影響をもたらしていると思う。例えば縄文時代や古代に目を向けた時に何がポイントになったのかという視点で見ると、西野委員のお話だとやはり水、安定して生活できること、災害がないといった場所が柏にはあったということがわかる。そのあたりが構造的につかまえるポイントになるような気がする。	鉄道と台地の関連 ⇒第1章、第3章(歴史文化の特徴)に記載
14	25	井上	県の教育振興財団で柏の土地区画整理の中のひとつの遺跡の整理をしたが、かなり縄文時代の集落が展開する中で中世のムラの跡も随所に見られた。やはりそれは安定があったのだと思う。台地の上の調査のため限られた範囲ではあるが、それ以外にも低地、水との関わりで発掘調査はしていないが遺跡は多くあると思われるので、台地の上の縄文遺跡との比較で言うと同じような立地にあることが言える。	縄文、中世 ⇒第1章、第3章(歴史文化の特徴)に記載

文化財保存・事業への提案	15	4	萩原	□いろいろな芸能が廃れてきているということがあり、三匹獅子舞などもこれから先どうなるのかと思うところがある。松戸は3ヶ所ほど三匹獅子舞があり、市川にも昔は非常に盛んであったが今はなくなってしまい頭だけが展示されるような状況である。例えば松戸はCDを作成したりしているが、 <b>近隣市の三匹獅子舞の保存会の方々と話をしてみたりしてこれからのことを考えていくと良いのでは</b> と思う。	三匹獅子舞の保存会 ⇒第6章に記載
	16	5	萩原	カシニワなどのいろいろな事業もあるようだが、時間のあるお年寄りにはネットなどはなかなか見ない。 <b>時間はあり何かやりたいというお年寄りは多くいると思うが、そういうネットを見ない方々のためにも地域の小冊子や地域新聞と</b> いったものを出すと良いのではと思う。	各世代に対する腐朽啓発 ⇒第6章に記載
	17	6	石神	石造物というものは中世の板碑から始まり地域にたくさんあるもの。今まで柏市は <b>多くの報告書を刊行しているが、その蓄積がなかなか市民に伝わっていない部分がある</b> と思う。ヒアリング資料にもあるが、もう少し市民にわかりやすくなると良いという意見がある。もっとも大事なものは「人」である。例えば <b>庚申塔という塔そのものは存在しているが、そこに人がどう関わってきたのかというその流れ、蓄積こそが民俗資料として大事である</b> と思う。人との関わりがわかると、石造物の価値という点でより <b>親近感がわく</b> のではないかと。石造物は施主の名前も書いてあり、古文書と対応させると誰であったかがわかる場合もある。そういったきめ細かい調査をしていくことによって、地域のなかでの大事な文化財だという理解が広まるのではないかと。いま蓄積は多くあるので、調査を深めていけばできることもあると思う。ストーリーが大事という意見もあったが、 <b>何のために作るのかということがわからなければ石造物の場合、ただの路傍の石となってしまう地域の歴史の一断面を見るためのものという理解を得られない場合がある</b> 。庚申塔の研究で地域との関わりを捉えたいと思っているため、そういった部分も地域計画に盛り込んでもらえたらと思う。	石造物の調査、保存、腐朽啓発 ⇒第6章に記載
	18	7	石神	地域を歩いてめぐると、 <b>マイクロツーリズム</b> 的なことも大事だと思う。	マイクロツーリズム ⇒第6章に記載
記載方法	19	8	石神	計画案の中で一点気になることとして、本文p.16の図（かしわ資産（仮称）の対象と保存活用のサイクル）について、問題については意見はないが、価値づけする言葉は私はあまり好きではない。 <b>価値はつけるものではなく、見出されていくものである</b> と思っている。文化庁はよく使う言葉なのかもしれないが、もう少し市民に寄り添った言葉にしてもよいのではないかと。	「価値をみいだす」 ⇒序章、第6章に記載
	20	12	藤井	柏市の立地（陸、水、空の問題など）が出たが、それを <b>構造化して模式的な平面図のような形で出せないものか</b> 。柏の場合、古くから住む市民と最近住み着いた方がおり、圧倒的に後者の方が多いと思われるが、そのため構造がわからない人が多い。本文p.16の図（かしわ資産（仮称）の対象と保存活用のサイクル）は概念図であり、実態として構造的な図があわせて欲しい。	柏市の立地の特性 ⇒第3章に記載
	21	16	藤井	構造化ということを考えた時に、 <b>石造物や社寺</b> などがあるが、大体そういうところには大きな樹木もあり、大事にされてきたはずである。 <b>道の辻や道の接点にあたる場所には大体そういうものがある</b> 気がして、構造化を進めていくときにそういうところが拠点になるような気がする。そういったところにはおそらく民俗的な問題もしっかり入ってくるはず。 <b>地域計画の大きなポイントである総合化というところは、そのあたりが構造的に把握できるようになると良いのではないかと</b> 。	縄文、中世 ⇒第3章（歴史文化の特徴）に記載
	22	17	金出	構造的にどう表すかという話が出たが、昔からある <b>神社やお寺</b> が今もそこにあるということは昔から有力で、良い場所にあると考えられる。 <b>縄文時代の遺跡</b> なども高台の良い場所にある。そういった <b>時代の異なるものを重ねると要所となる場所がいくつかある</b> ことが見えてくるのではないかと。	要所となる場所 ⇒第7章2に記載 ※会議内の事務局回答 「構造的に総合的に表すことについて、今後、景観や歴史的建物など残っている場所、例えば手賀地区などで試験的に検証し表現できるかモデルケースとして検討」
	23	18	井上	神社などのいわゆる公共の場は環境と結びついてマップ的に面白いものが出てくる可能性はある。 <b>公の場というものがどういう風に意識されてどう変わってきたか</b> がわかると面白いのではないかと。	神社等の公共の場の変化 ⇒第3章（歴史文化の特徴）に記載
	24	19	藤井	柏市の <b>地図</b> の上でKJ法でキーワードになるようなものを入れていけばかなり構造化できるのではないかとと思う。	柏市の歴史文化の構造化 ⇒第3章（歴史文化の特徴）に記載
	25	26	塩澤	先ほどから構造的に把握という話が出ているが、図の中に <b>テーマと資産と分かることをすべて盛り込んだものが最終的にできると、わかりやすく構造的につかめるようになる</b> のではないかと。	柏市の歴史文化の構造化 ⇒第3章（歴史文化の特徴）、第7章の1（関連文化財群）に記載
他の	26	11	藤井	前半部分に関連する条例等が掲げられており、こんなに柏市にはいろいろな <b>計画があるが、実態とは乖離がある</b> と感じている。これを改善したいと思っている。	計画の位置づけ、今後の体制 ⇒序章、第9章に記載